



ほんものを たべよう

提出日				
12/	火	水	木	金
	6	7	8	9
配達日				
12/	火	水	木	金
	13	14	15	16
翌々週分配達日				
12/	火	水	木	金
	20	21	22	23

オルターの提案

本当に安全な食べものを手渡すために

- 「だれが・どこで・どのようにつくったか」の情報を日本一公開します。
- 「国産」「無農薬」にこだわり、日本の伝統食を守ります。
- 原料段階・飼育段階からポストハーベスト農薬、遺伝子組み換え、放射能汚染、トランス脂肪酸、食品添加物などを徹底的に追放します。
- プラスチック容器・レトルト食品を追放します。

Alter Weekly Order Catalogue

2011.12月3週号

みかん ORANGE

潮風薫る石垣みかん

町ぐるみで有機栽培に取りくむ明浜町

オルター基準 ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ◆のみかんです。

農事組合法人 無茶々園

文責 西川 榮郎 (NPO 安全な食べものネットワーク オルター 代表)



無茶々園・生産者のみなさん

パワフルな有機栽培農家グループ

愛媛県明浜町にある農事組合法人無茶々園は、JAS有機に準じた栽培方法で(オルター農産物栽培基準☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ◆)柑橘類の温州ミカン、伊予柑、ポンカン、甘夏、レモン、ネーブル、デコポン、はっさくグリーン温州、などを栽培し、それらの加工品も、オレンジジュース、フルーツゼリー、マーマレード、みかん酢や、エッセンシャルオイル(カタログ2010年2月2週号参照)も作っています。

雨の少ない温暖な明浜町の気候は、みかん作りに最適。海を見下ろす段々畑の、鎌倉時代からといわれる石垣は、感動的でさえあります。本場の愛媛みかんのなかでも、台風、病害虫など幾多の苦節を、地域の人々とともに乗り越えてきた、人情と潮風の薫る文句なしの品質のみかんです。一番味ののった時期に収穫してお届けしています。

無茶々園のみかん生産者は、町内農家の2割を超える85世帯に達しています。無茶々園の影響を受けて、何らかの有機農業の取り組みをしている農家は町内の半数以上にも達しています。かつて、町内で行われていたスプリンクラーによる農薬散布を、無茶々園のメンバー自身は嫌なので行わないけれども、スプリンクラーに頼る農家のために代わって散布してあげるといふ迫力のある反対

運動をしながら中止させるに至ったというエピソードは印象的です。

今では、愛媛県下はもとより、全国でも最もパワフルな有機農業実践農家集団の一つです。

農薬の追放に立ち上がる

愛媛みかんの主産地形成が始まって、過剰生産、そして価格の暴落。気がつけばジョロウクモ、キリギリス、コオロギ、バッタ、カニ、貝、魚などが、みかんを作るようになって姿を消した。原因は農薬ではないか。過疎化が急速に村を襲った。「このままの農業じゃだめだ」。そんなとき朝日新聞に「複合汚染」(有吉佐和子)が連載されていた。それが無茶々園のメンバーが有機農業に目覚めたきっかけでした。

「有機農業」という言葉がまだそれほど一般的ではなかった1974年、宇和海に面した愛媛県明浜町で広福寺住職の好意により、有機農業の研究園として15haの伊予柑園を借りた片山元治さん、斎藤達文さん、斎藤正治さんの3人が、そのみかん園を「無茶々園」と名づけたのが無茶々園の始まりでした。「ムチャチャ」とは、スペイン語で「お嬢さん」の意味があるそうで、無茶々園はネオン街

の蝶を追いかけるよりも、みかん山のアゲハチョウでも追っかけよう、無農薬・無化学肥料なんて無茶かもしれないがそこは無欲になって、無茶苦茶ががんばってみようという意味をこめて、「無茶々園」と命名されたということです。

片山さんらは1975年に伊予市の福岡正信氏(マグサイサイ賞受賞)の自然農法の園地見学後本格的に無農薬・無化学肥料栽培を開始されたのです。「私たちは汚れなき緑の地球で大地と共に生きてゆきたい。そのために地球人として環境に対する義務を果たさなければなりません」と無茶々園は宣言して、2001年、AFAS認証センターのもとで国際規格ISO14001認証を取得されました(ただし、コスト上の理由から現在は更新されていません)。無茶々園は自分たちのしてきた努力がどの程度のものであるのか世界標準規格できっちりと評価し健康で安心して食べることでできる食べ物生産を通して、住みやすい緑の地球、さらには地域の文化を大切にしたい田舎作りに役立てようとしているのです。今、これらの志は地域の人々の間に確実に輪を掛け、まさに大輪の花を咲かせています。

片山さんとは、徳島県で私が「徳島暮らしをよくする会」を、無茶々園とほぼ同時期に創設した時以来の仲間です。

無茶々園のみかん (☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ◆)

●生産者

生産者:農事組合法人「無茶々園」の会員85名

依津地区:宇都宮氏康、宇都宮祐一、藤本義男、宇都宮泰、宇都宮伊太留、宇都宮英利、高岡正昭

渡江地区:佐藤元喜、佐藤茂雄

枝浦地区:宇都宮俊文、中川寛泰、西野知、中井弘、斎藤正治、大河又夫、酒井烈、上田数富、西田輝任、宇都宮幸紀、宇都宮一郎、井上利兼、原田市男、佐藤正巳、原田庄七、谷口春美、宇都宮孝、中村初己、幸地洋子、横山知、村中健造、松田伝四郎、原田成頼、三好実、佐藤岩雄、原田邦夫、上田真、香田雅之

本浦地区:亀井秀男、沖村梅男、宇都宮利治、大津敬雄、松本芳雄、片山健策、片山嘉伸、片山元治、斎藤達文、宇都宮亮尚、川越文憲、藤本敦、山下佐賢、松本世紀、高岡助則、原田和男、久津名明、大久保勝、橋本一成、藤田雅示、森川嘉則、浅野一利、大津晴男、池内大造、北野原一、橋本寅雄、高野公利、佐海キヌエ、山下数人、南淵敏和、ファーマーズユニオン

高山地区:門田喜代嗣、中広英雄、中田武雄、大久保利雄、中川邦愛、二宮正仁

田之浜地区:浅井助良、井上久和、中山源綱、土居与次、中西花子、平田英与、菊地善一、福井平太郎、土井新兵衛、川口平、宇都宮金男

●栽培方法

- 防除
- 1 無茶々園では国際規格のISO14001のレベルに準じて、生産行程の管理を行っております。
 - 2 無農薬・無化学肥料栽培を原則としていますが、昨今の異常気象で止むを得ず農薬散布をすることもあります。その場合、メッセージでお知らせします。
 - 3 除草剤・化学肥料・ワックスなどは使用していません。
 - 4 無茶々園では、有機栽培に準じた栽培を行っています。有機JASにおいて使用が認められている、冬期のマシン油、春先のボルドー液、(果実のなっていない2月~4月に散布)を使用しています。
 - ・マシン油は害虫を包んで窒息死させるという農薬の中でも、安全性の高いものです。
 - ・ボルドー液は硫酸銅と石灰の混合液です。昔からある農薬です。温暖化で気温が高くなり、そうか病が出るようになり、止むを得ず使わなければならない場合ができてきました。
 - ・いずれも開花前での使用です。果実には散布されていないので、安全性は高いものです。
 許可制で、病害虫の異常発生時にやむを得ず農薬を使用するケースもあります。
 - ・デラン乳剤(そうか病)、ダニカット(サビダニ)、スミチオン(カメ虫)などを年1~2回を限度としています。

施肥 独自開発して使われている有機肥料は、魚粕、米ぬか、大豆粕、菜種油粕、骨粉(みかんに肉骨粉がつく心配はないが、代替を検討しています)、カニ殻、乾血粉、パームやしらす、豚糞ボカシ、鶏糞ボカシなどです。

一般のみかんの 問題点

通常のみかん栽培においては、殺虫剤、殺菌剤、除草剤などの農薬を使っています。もちろん、化学肥料も使われています。

昔は甘味を出すために、夏みかんなどの木に亜ヒ酸(ヒ素剤)を

注射していたこともありましたが(現在もちろん禁止されていますが、韓国からこっそり輸入して使っていた事件も起きています)。また愛媛経済連が見えをよくするためにみかんにワックス(発ガン性の心配あり)をかけ始め、当初高値を呼んだことから、全国化してしまい、当時はワックスがけしていないみかんはくず扱いという有り様になっていました。今では、このワックスがけは、極早生、伊予柑にしているくらいです。このワックスには農薬を混合するのが一般的です。ワックスがけを止めても、出荷直前に畑で木になっているものに農薬を使用しているのです。

また晩柑、夏みかん類、スダチなどの貯蔵みかんに対しては、国内でもトップジンなど有害な農薬でのポストハーベストが一般的に行われています。

しかし、こんな問題だらけの国内産みかんでもオレンジやグレープフルーツなどの輸入みかんよりはまだまだです。輸入みかんは貯蔵に、OPPやTBZを始め残留性の高い農薬を使用しています。その中にはアメリカ国内では使用が禁止されたEDBが日本向けにはまだ使われていたりもしています。